

## 平成 29 年度兵庫県農業改良普及活動推進会議の実施結果について

平成 29 年度に実施した兵庫県農業改良普及活動推進会議の結果について、下記のとおり公表します。

### 記

#### 1 目 的

より効率的かつ効果的な普及活動を農業改良普及センターが展開し、高い成果を創出するため、現在の普及活動の取組状況やその成果等について、農業者、農業関係団体、消費者団体、学識経験者、マスコミ、流通企業等から幅広く意見を聴取し、普及指導計画の作成や普及活動の向上を図ることを目的として、兵庫県農業改良普及活動推進会議を開催した。

2 日 時 平成 30 年 1 月 31 日（水）

3 場 所 兵庫県立ひょうご女性交流館

4 会議の構成員 8 名

〔 内訳：先進的農業者（1名）、若手農業者（1名）、女性農業者（1名）、  
農業者団体（1名）、消費者団体（1名）、学識経験者（1名）、  
マスコミ（1名）、民間企業（流通業）（1名） 〕

5 対象農業改良普及センター 4センター（加古川、光都、新温泉、南淡路）

#### 6 会議の内容

- (1) 兵庫県の農業改良普及事業の体制
- (2) 対象農業改良普及センターの主要な課題と普及活動の実施状況
- (3) 意見聴取

#### 7 実施結果

構成員から聴取した意見及びそれに対する当県の対応は、別表 1 のとおり。

#### 8 参 考

対象農業改良普及センターの主要な課題は、別表 2 のとおり。

(別表 1) 平成29年度兵庫県農業改良普及活動推進会議での構成員の意見と県の対応

番号	発言者	意見	県の対応
1		<p>直売所での農家と消費者の交流イベントは、消費者は喜んでくれるが、多忙な農家に参加してもらうのはなかなか難しい。</p>	<p>稲美町のトマトでは、市場出荷ではなく直売所を中心に販売をされている農家もおられ、売上に結び付けていくためには、直売所をいかに盛り上げていくかが重要です。</p> <p>このため、直売所の運営者や出荷農家がJAや商工会等と目標を共有し、イベントの企画段階から共に検討し、それぞれの得意な分野を持ち寄ってイベントを開催することとしています。</p> <p style="text-align: right;">【加古川農業改良普及センター】</p>
2	女性農業者	<p>企画するからには農家にも意義があり喜んでもらえるようなイベントであることが重要。そのための工夫などあればお聞きしたい。</p>	<p>淡路の玉ねぎの場合、ほとんどが市場出荷です。農家はそれぞれにこだわりを持って生産していますが、市場流通ではそれが評価されにくいのも確かです。</p> <p>しかし、直売所の交流イベントでは、消費者の感想を直接聞いて農家もやりがいを感じているようです。</p> <p>また、特定の消費者にこだわりのある価値の高い産品を直接販売することで、ファンをつくることに繋がり、それが積み重なることでブランド力が向上し、価格の上昇に向かうものと考えています。</p> <p>他にも、子育て世代の若い農家にとっては、自身が楽しく農業をやっているところを子供にみせることは、後継者の確保においても意味があると思います。</p> <p style="text-align: right;">【南淡路農業改良普及センター】</p>

番号	発言者	意見	県の対応
3	学識経験者	<p>新規就農者といっても、新規自営の就農、非農家からの新たな参入、雇用による就農などに分かれるが、それぞれに支援すべきことが異なり、それぞれに適した対応が必要である。</p>	<p>国の新規就農支援施策は、青年等就農資金など対象年齢が45歳未満の若い方が中心であり、年配者への支援は少ないのが現状です。</p> <p>加古川普及センターへの就農相談のうち50～60代の年配者の相談件数は1割程度ですが、相談に来られた方には、農地の見つけ方、技術の習得方法など若い方と同じように提案を行い支援しています。</p> <p>また、定年後に農業を始める方には、JAや直売所の部会加入等をきっかけに講習会等で普及センターとの付き合いが始まります。今後こうした形での支援を続けていきたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【加古川農業改良普及センター】</p>
4		<p>また、若い就農者への支援が中心のようだが、定年後に本格的に農業を始めるような年配の就農者も立派な担い手であり、支援が必要と思う。</p>	<p>西播磨県民局では交流人口の拡大を目指し、I・J・Uターンそれぞれの人たちに地域に住んでもらう施策を推進しており、その選択肢の一つとして農業の就業支援があります。</p> <p>就農の形態を独立と雇用に大別すると、I・J・Uターンの方々には独立就農で身の丈にあった経営を勧めています。</p> <p>一方、光都普及センター管内には農業科のある県立高校が2つあり、卒業生が地域に残って農業ができるようにすることが重要な課題でもあります。最初に雇用で就農した彼らは若いゆえに自分の将来像をなかなか描けないので、雇用主のもとで経営を支えるのか、独立を目指すのかを考えるとともに、経営感覚を磨くような研修を行って支援しています。</p> <p style="text-align: right;">【光都農業改良普及センター】</p>

番号	発言者	意見	県の対応
5	学識経験者	<p>新規就農者といっても、新規自営の就農、非農家からの新たな参入、雇用による就農などに分かれるが、それぞれに支援すべきことが異なり、それぞれに適した対応が必要である。</p>	<p>他と異なる取組をひとつ紹介します。          新温泉普及センター管内では、但馬牛の繁殖経営に憧れる若い人が一定数いるなど畜産関係の新規就農希望者が比較的多くいます。しかし畜産は初期投資に要する費用が高額で技術も独特であり、新規就農にはハードルが高いと言えます。          このため、新温泉町では「地域おこし協力隊」として最大3年間町が雇って町の仕事をしてもらいながら畜産の技術習得を行う事業に取り組んでいます。また、研修用の牛舎を現在建設中であり、そこで自分の経営を少しずつスタートさせるというプログラムを組んでいます。  <b>【新温泉農業改良普及センター】</b></p>
6		<p>また、若い就農者への支援が中心のようだが、定年後に本格的に農業を始めるような年配の就農者も立派な担い手であり、支援が必要と思う。</p>	<p>南淡路普及センターでは、平成17年度から「南淡路農業大学校」として新規就農講座を続けており、農業の基礎技術の習得や仲間づくりを支援しています。対象はUターン中心ですが、最近はIターンが増加しています。          Iターンの場合、就農にあたって、まずJAの子会社で研修したり、親方農家のもとでインターンとして勉強するなどワンステップ経てから就農していただくこととし、販売先はJAとし確実に売っていくことを指導しています。          ある程度基盤が出来上がるまでは、こうすることが最も安全で確実な方法と思っています。  <b>【南淡路農業改良普及センター】</b></p>

番号	発言者	意見	県の対応
7	農業者団体	<p>関係するJAの営農担当に普及センターに対する意見を聞いたところ、どのJAからも普及指導員に対する感謝の言葉が一番多かった。次に多かった意見は、普及指導員の皆さんは人が少なくなって大変そうだということ。</p> <p>JAグループは今、自己改革として農業者の所得増大と農業生産の拡大に取り組んでいる。今後とも普及センターとは同じ目標に向かって一緒に活動していきたい。</p>	<p>普及センターの職員は昔と比べて確実に減っており、以前より余裕がなくなって来ているのは確かです。このため、より合理的な活動が求められており、JAとの連携がますます重要になっています。</p> <p>「餅は餅屋」と言うように、流通や販売はJAが専門家です。農家にも経営者としてJAと上手に付き合うよう指導しており、実際にJAの直売所への出荷やJA経由での業務加工用仕向け野菜の出荷で立ちしている生産者もいるなど、色々な形でJAは活用されています。そうすることで、普及センターが全てを抱えなくても済むし、JAの良いところを活かせることにもなると考えています。</p> <p style="text-align: right;">【加古川農業改良普及センター】</p>
8	先進的農業者	<p>今、地域の中でリーダー的な存在が足りない。地域にも、営農組織にも。法人化すれば上手くいくというわけではなく、そこにしっかりとしたリーダーがいてこそである。リーダーをどう育てていくかが課題である。</p>	<p>地域農業の担い手は、最近ではIターンや企業参入も含めだんだん多様化してきました。昔のようなどんぶり勘定ではなく、ちゃんと目標や計画を立て、雇用をしながらしっかりと経営していく農業者が増えてきたように思います。県では、そういった経営者は十分地域の中でリーダーとして活躍していただけると考え支援してきました。</p> <p>農家同士の横のつながりの中でリーダーはできるものと思います。光都普及センター管内は、土地利用型農業が盛んであり、農地集積が進んでいる地域では、必要不可欠な人材は誰が見ても明らかです。彼らが継続して農業を続けられるように支援していくことが重要と考えています。</p> <p style="text-align: right;">【光都農業改良普及センター】</p>

番号	発言者	意見	県の対応
9	農業者団体	<p>J Aとして組合員を支援する課題の一つに、経営管理の支援がある。光都普及センターで行われている西播磨アグリカレッジ研修会は非常に良い研修だと思う。研修の内容や参加されている農家の反応はどうか、参考として聞きたい。</p>	<p>西播磨アグリカレッジ研修会は基本的な販売、会計、労務の研修会です。 販売は農家の興味が最も高いです。中小企業診断士を講師に呼ぶことが多く、ツールの使い方や商談の仕方がメインです。 会計は税務が最も関心が高いので毎年取り上げています。せっかく記帳までできているので、今後はいかに利益を確保するか、固定費や変動費にも踏み込んで指導していきたいと考えています。 労務は関心を持つ人が比較的少ないです。社会保険労務士を講師に招いた良い講義ですが、就農して日が浅い人は目の前の経営のことで精いっぱいなので、雇用までまだ考える人が少ないのが残念です。 今後は、研修会を通じて、経営者として法人化を検討できるところまで繋げていきたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【光都農業改良普及センター】</p>
10	消費者団体	<p>「なしおとめ」はネーミングが面白く、ロゴマークも可愛らしい。「美菜恋来屋」もそうだが、ネーミングは1回聞いたら覚えてしまうようなものが良いと思う。</p>	<p>「なしおとめ」は昨年度公募によって選定されました。 ただ、ネーミングは、名付けた当初は非常に違和感があるもので少し不安でしたが、何度も使っているうち違和感が薄れ、今では定着してきたように思います。</p> <p style="text-align: right;">【新温泉農業改良普及センター】</p>

番号	発言者	意見	県の対応
11	マスコミ	<p>メディアとしては、どこに注目して誰に知らせめたら良いのか明確になればなるほど紹介しやすい。</p> <p>若い人なら、きつい、汚い、とかじゃなく、自分たちが地域を支え、ひいては日本を支えるんだというようなプライドを持ち、農業に対する熱い思いがあるような方を応援したいし、普及センターにはそういう指導をしていただきたいと思う。</p>	<p>普及センターも色々な情報発信をしていますが、発信先が限られていたり、まだまだ十分とは言えない状況です。今後はさらにメディアへの情報提供を進めていきたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">【農業改良課】</p>
12		<p>新しいことに挑戦する人は面白い。既存の流通網への出荷も大事だが、新しい販路を開拓するとか、何かにトライする姿を紹介したいと考えている。</p> <p>テレビだけでなく新聞社など色々なメディアが、日々情報を求めている。そこへどう発信していくか。どんどんメディアに突っ込んでいくべきだと思う。</p>	<p>県下には、こだわりのある産物は至る所にあります。それに関わって頑張っている若い人たちもたくさんいます。</p> <p>情報の提供は普及センターでどんどん行いますので、そんな産物の良さを伝える機会をどんどん作っていただきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">【南淡路農業改良普及センター】</p>

番号	発言者	意見	県の対応
13	流通業者	<p>我々バイヤーは、市場やJAの担当者とは会うが、普及指導員と会う機会はほとんどない。</p> <p>2年前、玉ねぎのべと病が広がったときは相場でかなり苦しんだ。翌年普通の値段に戻った時は安堵したが、実はその陰に普及指導員の皆さんの努力があったからだということはほとんど知られていない。</p> <p>バイヤーも普及指導員の思いを知ることでもた変わってくると思う。それが最終的に消費者に喜んでもらうことになると思う。</p>	<p>県下には、こだわりのある産物は至る所にあります。認証食品などの表示も大事ですが中身の産物を消費者にどうやって伝えていくかも大切です。</p> <p>流通業者やメディアには、こだわりある産物の来歴や良さも伝えていただければ非常にありがたいです。そういう機会があれば、普及センターは材料集めを一生懸命にやります。</p> <p style="text-align: right;">【南淡路農業改良普及センター】</p>



(別表2)

加古川農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	都市近郊の立地等を活か した施設野菜の生産拡大	施設野菜における新技術の導入促 進 (環境制御技術の導入)	環境制御技術の導入による施設野菜の生産性向上を図 るため、トマトやいちご生産者等を対象に、個別巡回 と研修会の開催やふるさと創生推進事業を活用した技 術導入を行った。その結果、環境測定器6戸、環境制 御機器3戸、統合環境制御システムを2戸が新たに導入する など環境制御技術の普及が進んだ。
	新たな担い手確保や省力 化などによる露地野菜の 生産拡大	機械化による省力化、規模拡大の 促進	国指定産地であるキャベツ産地の活性化を図るため に、集落営農組織や個別大規模生産者を対象にキャベ ツ栽培に必要な省力化技術の導入支援や栽培技術指導 を行った。その結果、平成29年度のキャベツ生産部会 の栽培面積は、年度目標を超える91haが見込まれてい る。
2 土地利用型作物 (米・麦・大豆)のブ ランド力向上	ひょうごの強みを活かした 県産米の生産振興	多様なニーズに対応した主食用米 の生産	ヘアリーベッチ米研究会を対象に実証ほ(7ヵ所)を 設置し、研修会等により技術向上を図っている。また 日本酒、おかきなどのヘアリーベッチ関連加工品も増 えており、消費者向けのPRビデオの制作やPRイベン トの開催により、認知度向上と消費拡大を図ってい る。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体等が中心となる 農業構造の確立	集落営農組織のレベルアップ	法人化した集落営農組織の経営の安定と発展を推進するため、経営面積の拡大と6次産業化を推進した。その結果、野菜栽培を増やすなど生産面積を拡大する組織が増え、酒造りやおかきなど他産業と連携して6次産業化を実践する組織も増えた。しかし、面積増に合わせた人材確保に苦慮する組織もあり、今後も引き続き人材育成の支援を図る。
		認定農業者の育成	若手農業者が経営のステップアップに必要な知識を習得できるように、経営管理や労務管理の研修を実施すると共に認定農業者への誘導を行った。その結果、認定新規就農者の期間を満了した者や経営が順調な者3名が新たに認定農業者となり、1名が計画中である。
	新規就農者の確保・育成	経営開始時の支援	若手農業者の円滑な経営開始と早期の経営安定のため、規模拡大や労務管理の支援を行うとともに、個別に課題と具体的な目標の設定を支援した。その結果、3名が新規作目の導入や新たな栽培方法を確立させ、9名が新規就農した（独立5、親元2、雇用2）。
14 新たな需要や市場の積極的な開拓	マーケットインの発想によるブランド化、特産品化、6次産業化	トマト王国の復活の実現	トマト王国として産地の活性化と地域活性化を図るため、トマト祭り（2回、16,000人）や、トマトバスツアー（3回、142名）を企画・開催し稲美トマトのPRと消費拡大を図った。今後、「稲美トマト王国パスポート」を発行し、さらなるリピーターの確保を図る。
15 効率的・安定的な流通の確保	農林漁業者の直売活動の推進	直売所への供給機能の強化	経験年数の浅い農産加工者に対し、加工施設の設置に向けた指導を行った結果、3者が加工施設を整備した。また新商品開発の研修会などを開催した結果、8品目の新商品ができた。更に、衛生管理研修会の開催や6次産業化の支援を行った結果、直売所の売上や利用者数は昨年を上回る見込みである。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

光都農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	都市近郊の立地等を活か した施設野菜の生産拡大	施設いちご生産者の経営発展支援	施設いちご生産者が新たに2名(20a)加わり、全体 7戸に対して、個別指導や研修会を実施した結果、安 定生産技術を習得できた。また、そのうち4戸で環境 測定装置を導入し、データの活用によるハウス内の環 境改善が進み、収量の増加が見込める。
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体を中心となる 農業構造の確立	経営改善による経営体質の強化	認定農業者の経営改善のため、法人化、6次産業化、 経営改善の支援を実施した。その結果、4戸が法人を 設立し、2戸で6次産業化計画申請を行い、1戸が認 定され、加工部門を導入し、経営の多角化を目指す。
		集落営農組織の発展段階に応じた レベルアップの推進	水稻栽培技術の改善や緑肥作物(ヘアリーベッチ)の 導入を支援した結果、収益力が向上した。 また、法人化を目指している組合に対し、経営計画や 農業機械導入について検討を行った結果、法人化への 道筋が合意できた。
	新規就農者の確保・育成	新規就農者の就農支援	就農予定者のために、就農計画作成や就農相談を実施 した結果、3名が青年等就農計画を認定された。また 認定新規就農者5名に対して、経営、販売、栽培技術 の研修会等を実施した結果、就農計画が樹立できた。
6 畜産物のブラン ド力と生産力の強 化	県産生乳乳製品のブラン ド力と生産力の強化	高度な飼養管理技術の導入による 生産性の向上	大規模酪農家を中心に、飼養管理技術、繁殖成績を向 上させるため、餌の品質調査や牛舎環境改善に取り組 んだ結果、乳量が増加した。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
14 新たな需要や市場の積極的な開拓	異業種連携による価値創造の推進	農商工連携の推進によるフードチェーン構築とブランド力強化	「佐用もち大豆」のブランド化を進めるため、生産者組織「佐用もち大豆振興部会」を設立した。町、JA等関係機関で協力した結果、原原種から採種までを管理する体制を作った。
	農業・農村関連ビジネスの展開等による所得の向上や就業機会の拡大	6次産業化の推進による農林水産物の高付加価値化	栽培技術の向上や販路拡大のために、実証ほの設置、生育調査、HP、DMによる販売促進や新規販売先確保に取り組んだ。その結果、実証ほでは平均1.8kg/株となったが、11月上旬の凍害により、出荷不能となった。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

新温泉農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	地域特性を活かした果 樹・花き・特用作物等の 振興	ナシブランドの確立	兵庫県育成品種「但馬1号(愛称:なしおとめ)」の 生産拡大に向けて、接ぎ木、せん定講習会等を開催し た。その結果、高接ぎ実施農家が6戸増加した。ま た、香住梨のPRに向けて「香住梨スイーツフェア」を 開催したところ、11事業者から15品の新作スイーツの 応募があり、PRに弾みがついた。
2 土地利用型作物 (米・麦・大豆)のブ ランド力向上	ひょうごの強みを活かした 県産米の生産振興	低コスト省力化稲作技術の確立と コウノトリ育む農法の推進	低コスト技術として密苗栽培の実証ほを設置し、慣行 栽培との比較を行った結果、初期生育がやや劣るもの の、同等の収量を得ることができ、省力化につながっ た。また、コウノトリ育む農法の拡大に向けて推進を 行った結果、1.5ha作付けが拡大した。
	需要に応じた麦・大豆の生 産振興	美方大納言小豆の安定生産にむけ た省力化作業体系の確立	美方大納言小豆生産組合に対して、排水対策の徹底、 ほ場巡回等による病害虫発生対策等生産技術改善を 図った。また、実証ほを活用した機械化体系の推進に 取り組み、ビーンスレッシャーを事業導入した。
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体等が中心とな る農業構造の確立	営農組織の連携と広域化への支援 及び法人化の推進	法人化に向けた合意形成、経営記帳等支援した結果、 法人組織が設立された。さらに、経営改善計画作成支 援により認定農業者となり、中間管理事業を活用した 経営の安定に誘導した。
	新規就農者の確保・育成	新規就農者の技術習得支援	野菜では、ピーマンを中心に栽培技術の向上支援、畜 産では、但馬牛の飼養管理技術及び経営能力の向上支 援を行った結果、栽培管理技術の向上及び経営改善目 標の設定ができた。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
6 畜産物のブランド力と生産力の強化	但馬牛、神戸ビーフのブランド力と生産力の強化	放牧地の条件整備と放牧技術の向上	<p>耕畜連携放牧の拡大に向けて、レンタカウ事業を活用して放牧希望集落に対して推進を行った結果、4集落で放牧が実施された。また、放牧場の条件整備にとして、ワラビ防除実証試験（刈払い処理）を実施した結果、下草の生育が旺盛になり、牧養力が高まった。</p>

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

南淡路農業改良普及センターの主要な課題一覧

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	都市近郊の立地等を活か した施設野菜の生産拡大	いちご安定生産技術の普及	①炭疽病等重要病害虫の発生を抑えるため、農家ごとのチェックリストを作成し、防除技術の導入と励行を推進した。その結果、組合員16戸中炭疽病1戸、うどんこ病2戸の発生にとどまった。 ②ハウス内の環境改善による収量品質の向上を進めた結果、若手農家3戸が温湿度、CO2制御に取り組み、現在例年以上の生育で収量アップが見込まれる。
	新たな担い手確保や省力 化などによる露地野菜の 生産拡大	たまねぎ機械化体系の普及に適 した病害虫防除対策の普及	たまねぎ集団防除モデル確立のため、乗用ブームスプレーヤー（防除機）導入とオペレーター確保による受委託体制構築及び、効果的な防除方法習得について支援した。その結果オペレーター3人確保、栽培面積15haに対し防除機稼働面積延40ha、受委託体制樹立など、集落営農組織による集団防除体制が確立した。
		青ねぎの安定生産技術の普及	①べと病とシロイチモジヨトウの防除対策を進めた結果、防除作業の受委託ができたほかフェロモントラップによる発生予察により農家の適期防除励行に繋がった。 ②雇用を活用した経営体の育成では、先進地視察や計画的な作付けを推進した結果、新規品目導入等による周年雇用に繋がった。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの

ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
1 野菜等園芸作物 の生産拡大	地域特性を活かした果 樹・花き・特用作物等の 振興	赤ぎくによる産地ブランド力の向 上	6, 8, 9月出荷作型の栽培管理について、聞き取り調 査及び出荷状況を調査したところ、ほぼ計画どおりの 生産・出荷が実現できた。生産者は減少したが、赤色 系きくの生産量は維持できた。来年度以降も赤色系品 種に特徴を持たせた出荷ができるよう、赤色系品種の 作付け割合を増やすよう支援する。
		部会活動によるいちじく栽培者支 援体制の整備	①防除や摘心等適期管理の実施と雨除け等安定生産技 術を推進した結果、10月2度の台風にもかかわらず安 定して生産が得られた。 ②新規栽培希望者に対して定期的に講習会を実施した 結果、3名が栽培することになった。
		かんきつ類の品種・園地に適した 高品質安定生産技術の普及	3品種で試験を行い、それぞれで浮皮軽減効果が あった。着色の遅れがみられたが、収穫時期を遅らせ ることで、みかんが市場に出回るのが少なくなる12月 上中旬に、浮皮の少ない完熟みかんが出荷出来ること がわかった。
5 多様な担い手の 確保・育成	法人経営体等が中心とな る農業構造の確立	淡路型集落営農の推進	洲本市内の集落営農組織に対して耕作放棄地防止と 組織の活性化を目的に、畜産農家と連携して放牧を推 進した結果、3組織において遊休農地4か所、220aに8 頭の繁殖和牛を放牧した。省力的に農地の管理ができ 好評であった。
	多様な人材の参画による 地域農業の推進	女性農業者の経営参画促進	女性の経営参画促進を目的に、ベテラン女性農業者 組織「べっぴんハート」に対しては、個々の経営に反 映できるテーマを決め、研修を進めた。若手女性組織 「あわじ農業女子」に対しては、グループ活動の定着 と経営参画に繋がる知識習得及び情報交換を支援し た。その結果、自主的な研修会開催など、企画力の向 上や農業経営に係る技術習得が図られた。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの



ひょうご農林水産 ビジョン2025 施策項目	課題名 (ビジョン推進方策)	普及指導活動の内容 (平成29年度課題)	実施状況及び成果※
6 畜産物のブランド力と生産力の強化	県産牛乳乳製品のブランド力と生産力の強化	搾乳作業・飼養管理改善・搾乳機器等の効果的な活用による乳質向上	若手酪農家グループ「ゆづるは4Hクラブ」に対して、乳質の改善を図るため、研修会や継続的に個別指導を行い、乳房炎対策や飼育環境改善対策を実施した。その結果、乳質悪化の原因を特定・改善し、乳質の改善を図ることが出来た。
17 集落の活性化と雇用・所得の拡大	農業・農村関連ビジネスの展開等による所得の向上や就業機会の拡大	淡路島交流型農業ビジネスの仕組みづくり	交流型農業を推進していくため、実践農家間のネットワークづくりや拠点施設での農作業体験モデルを実施した。その結果、大型直売所「美菜恋来屋」での農作業体験の取り組みが始まり、次年度以降継続的に実施することになった。また、新たにバラ農家が摘み取り園を開始するなど、交流型農業に取り組む農家が増えた。

※ 実施状況及び成果は、会議開催時点のもの